

## 法音寺歴史講演会を

## 開催しました

去る2月28日(土)、岩倉公民館において、法音寺の歴史を考える講演会を開催しました。当日は、町内外から約100名の参加者があり、仏像や建物の専門家の講演内容に熱心に耳を傾けていました。

法音寺の仏像は、ご本尊の阿弥陀如来坐像が平安時代後期の典型的な作であり、当時の都である平安京で作られたものが運ばれてきた可能性があることや、年代的にはご本尊が一番新しく、その他の仏像がご本尊よりも古いということが特徴であるという指摘されました。また、十一面観音や伝釈迦如来坐像は、平安時代前期のもので、有田川中・上流域では最古級のものであること



や、法音寺を含めた生石山の周辺は、平安時代前期から中期の古い仏像が集中する重要な地域であると指摘されました。

法音寺本堂については、柱の上だけではなく、柱と柱の間にも組物があったり、厨子(ずし)の垂木は扇子のように放射状に配置される構造であるなど、真言宗の仏堂でありながら、禅宗の特徴がみられることが特徴であると建物の見所を説明いただきました。

講演会終了後は、修理が大詰めに近づいている法音寺本堂の修理現場を公開しました。参加者の方々は、修理に使用されている独特の道具やカヤを手にしたり、普段見ることがほとんどないかやぶき作業の様子を間近で見学いただきました。

本号がお手元に届く頃には、法音寺本堂の修理工事も完成し、屋根がふき替えられた真新しい姿が見られることと思いたすので、お近くにお越しの際はお待ち寄り下さい。

